

マダニに 注意！



フタトゲチマダニ
成虫（オス）約2.3mm

香川県は24日マダニが媒介する「日本紅斑(こうはん)熱」に仲多度郡内の成人男性が感染し、死亡したと発表しました。香川県内で日本紅斑熱の発症者は10人目で、死亡例は初めてのことで、疑わしい症状があればすぐに医療機関を受診するよう呼びかけています。各事業体におかれましては、マダニによる労働災害を未然に防止するため、以下の事項を周知するなど、注意喚起をお願いします。

～ 林業従事者など仕事で森林に入る機会の多い方へ～

マダニは県内に広く分布しているものと考えられ、活動が活発になると言われている春から秋だけでなく、冬も生息しており、年間を通じて咬まれないための予防対策が必要です。

マダニに咬まれないために

作業する際はもちろん、休憩などの際もできるだけ肌を露出しないようにしましょう。また、色の薄い服はくっついたダニを見つけやすくなるほか、ハチ刺され予防にも有効です。

衣服は長袖、長ズボン、長靴下等を着用し、襟首、袖口、裾からダニが入り込まないよう、袖締まり、裾締まりよいものを着用しましょう。

服の上や肌の露出部分に、防虫スプレーを噴霧しましょう。

地面や草むらに直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりするのはやめましょう。

休憩時間、終業時等には自分の服を叩いてダニを落とし、同僚同士でダニがついていないか互いに確認を行いましょう。

作業した後は

すぐに入浴し、体や頭をよく洗い、新しい服に着替えましょう。また、入浴時、咬まれる頻度の高い頭部(髪の毛の中)や耳の中、耳の後部、首の周り、脇の下などに咬まれた後がないか確認してください。

脱いだ衣服はすぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

マダニにかまれたら

吸着しているマダニを無理に引き抜こうとすると、マダニの一部が皮膚内に残ってしまうことがあるほか、病原体を体内に絞り込むことがありますので、必ず医療機関(外科、皮膚科)を受診するようにしましょう。

発熱等の症状が認められた場合は、早めに医療機関(内科)を受診し、林業従事者であることを伝えてください。

野外にいる吸血性のダニとしてマダニ(1～4mm)のほか、小型のツツガムシ(0.5～1mm前後)などが知られています。これらは、咬まれても、ほとんど痛みや痒みを感じません。これらのダニの中には病原体を保有しているものもあり、咬まれると、**重症熱性血小板減少症候群(SFTS)**や**日本紅班熱**、**つつが虫病**などの病気になり、重症になると死に至ることもあります。

ダニ刺されにより発症する病気、潜伏期間、症状について

病 名	潜 伏 期 間	症 状
SFTS	6日～2週間	発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状、頭痛、筋肉痛等
日本紅班熱	2～8日	発熱、発疹、刺し口、倦怠感等
つつが虫病	5～14日	発熱、発疹、刺し口、倦怠感等

香川県に生息する主なマダニ

タネガタマダニ 北海道南部、本州、四国、九州、対馬に分布。 若ダニは野兎病を媒介する能力が強いので注意が必要。	
フチトゲマダニ 北海道南部、本州、四国、九州、対馬に分布。 若ダニは野兎病を媒介する能力が強いので注意が必要。	
クリイロコイタマダニ 世界各国の亜熱帯、熱帯地域で見られ、日本では沖縄本島に分布するとされているが、最近では西日本の一部でも生息が報告されている。	
ヤマトマダニ 全国に生息している。特に東北地方、北海道に多い。	

マダニは、**卵→幼虫→若虫→成虫**の順に发育しますが、全てのステージで吸血します。また、ほとんどの場合、蚊に刺された時のような痛みやかゆみはないとされています。

